

インフォメーション・コーナー

会 告

○ 2021 年度（第 70 回）農業農村工学会大会講演会の講演申込み ^㊄ WEB 投稿受付期間 3 月 1 日～4 月 9 日	64
○ 2021 年度（第 70 回）大会講演会における「企画セッション」の募集 応募締切 2 月 5 日	66
○ 2021 年度（第 70 回）大会講演会における「スチューデントセッション」の講演申込み	
WEB 投稿受付期間 3 月 1 日～4 月 9 日	67
○ 2021 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集 申請締切 2 月 15 日	68
○ 2021 年度「研究グループ」への助成希望者募集 申請締切 2 月 15 日	69
○ 2021 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集 申請締切 2 月 15 日	69
○ 学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集	70
○ 改定 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内	70
○ お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	71
○ 2021 年 4 月から新たな CPD 制度がスタート! 前年度記録の申請受付は「6 月 30 日まで」に変更となります	71
○ 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	71
○ 2022 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	72
○ 農業農村工学会誌投稿要項の一部改正および「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿	73
○ 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020 年 7 月から 2021 年 6 月までの編集体制と編集事務局	74
○ 水土文化研究部会第 17 回研究会の開催（第 1 報） ^㊄ 参加申込締切 2 月 24 日	75
○ 令和 2 年度 ADCA セミナー「君の学びを国際協力へ 海外農業農村開発からの発信」(仮)の開催 2 月 6 日開催	76
○ 農業農村工学会誌投稿要項	77
農業農村工学会論文集 内容紹介	79
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	80
学会記事	80

第 89 巻第 2 号予定

展望：開水路の原点としての山腹水路と近代的な開水路システムの再構築：稲垣仁根

小特集：中山間地域における水路インフラの保全・活用と農業農村工学

報文：溪流からの流出に対する山腹水路の洪水緩和機能：岡島賢治ほか

報文：山腹用水路に対する住民の意識変化の取組み：竹下伸一ほか

報文：荒廃化した沢地における水利システムの保全方策の検討：柿野 亘ほか

報文：中山間地の水利システムの価値とその保全に関する一考察—熊本県通潤用水を事例として—：島 武男

技術リポート

北海道支部：北海道胆振東部地震における厚真ダムの被災状況と復旧内容：北島 悠ほか

関東支部：ため池の水質浄化の効果検証：山田孝大ほか

京都支部：喜瀬川水系におけるナガエツルノゲイトウの防除：三村拓登ほか

中国四国支部：愛媛県における小水力発電の実施事例：松木昭典ほか

九州沖縄支部：ため池改修におけるオニバスの環境保全措置の検討：成松克彦ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちいたしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこともございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2020年12月15日 ごろ～2021年 3月31日(予定)	京都支部	第77回研究発表会	—	Web形態	88巻4,6,10号
2021年1月 19日	農村道路研究部会	第30回研究集会	ⓑ 農道施設の点検について	Web形態	88巻10号
2021年1月中	中国四国支部	第75回講演会	—	Web形態	88巻5,8,9,11号
2021年3月 2日	水土文化研究部会	第17回研究会	ⓑ 〈水土〉のエコノミー	Web形態	89巻1号
2021年8月 31日～9月3日	大会運営委員会	2021年度(第70回)農業農村工学会 大会講演会	ⓑ —	福島市	88巻12号 89巻1号

2021年度(第70回)農業農村工学会大会講演会の講演申込み

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



2021年度(第70回)農業農村工学会大会講演会は、福島大学農学群食農学類において2021年8月31日(火)、9月1日(水)、2日(木)の3日間、および現地研修会は9月3日(金)の開催を予定しています。

この講演会で講演発表を行いたい方は、下記要領にてお申し込みください。今回のご案内は、講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は、学会誌4号でお知らせします。

発表方法の詳細は、大会投稿サイトおよび学会誌3号または4号に掲載しますので必ず確認してください。

大会講演会の発表申込みはWEB投稿となります。

URLは<http://www.jsidre.or.jp/zenkokutaikai/>です。

WEB投稿の受付期間は2021年3月1日(月)～4月9日(金)です。

1. 講演要領

- 講演資格**：代表発表者は、本学会会員に限りま。講演申込み受付の際、会員番号が必要です。この機会に入会される方は、学会ホームページの入会手続き(http://www.jsidre.or.jp/about_member/)をご参照ください。
- 講演内容**：学術講演会にふさわしい内容を備えたもので、原則として未発表のものを受け付けます。現場からの報告も歓迎します。
- 講演部門**：12部門あります。ただしプログラム編成上、希望した部門と実際の講演部門が異なる場合があります。
- 講演方法**：原則として、1人(共同研究の場合は代表発表者)1課題です。ただし、企画セッションと個人発表の各1件ずつの発表は認めます。個人発表者が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認めません。

- 発表形態**：発表形態として「口頭発表」または「ポスター発表」のどちらかを投稿時に選択してください。

①「口頭発表」：各部門の講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式。

②「ポスター発表」：講演会場とは別のポスター展示会場において、会期中ポスターを展示するとともに、コアタイムと呼ばれる決められた時間帯にポスターを使って発表する形式。

なお、プログラム編成上、やむを得ず発表形態を変更する場合があります。変更に応じられない方はあらかじめ投稿票の「変更可否」で「否」を選択してください。プログラムならびに発表形態、ポスターの大きさなどについては、学会ホームページで6月末までにお知らせします。

- 講演時間**：①口頭発表は1課題15分(質疑時間も含む)です。また、企画セッションは1セッション100分です。②ポスター発表では、会期中にコアタイムを設定します。
- 要旨集**：(2)にあてはまるすべての原稿をCD-ROM版講演要旨集に収録します。
- 概要集**：WEB投稿時の入力情報のうち、講演題目、発表者所属、氏名、講演概要(200字以内)を、概要集に収録します。講演概要が200字を超えるものについては、文章を割愛します。

2. 投稿要領

- WEBから新規登録を行い、講演原稿のアップロード、および講演申込料2,200円(税込)の納入をもって申込みとします。振替用紙には必ず『大会講演申込料』、氏名、

所属を明記してください（郵便振替用紙は、郵便局に備え付けのものをご使用ください）。年会費等をまとめて支払う場合は内訳も明記してください。なお、送金後に発表を取り消されても、講演申込料の返金はいたしません。送金の控えをPDF以外の画像データで、WEB登録画面からアップロードしてください。

- (2) 講演原稿は、図・表・写真などを含め1課題2ページです。後述の「3. 講演原稿の書き方」に従い、執筆してください。
- (3) 講演原稿ファイルはPDF形式でのアップロードとします。
- (4) 講演原稿PDFファイルは、半角ローマ字表記の代表発表者名（姓名）としてください（例：「nougyou tarou.pdf」）。
 - ・ Acrobat DistillerまたはAcrobat PDF（アドビシステムズ社：Adobe Acrobatに付属）を使用し、すべてのフォントの埋込みをして変換したPDFファイルとしてください。
 - ・ PDFファイルに、セキュリティ（文書パスワード、セキュリティパスワード、印刷、文書の変更、テキストとグラフィックス選択、注釈とフォームフィールドの追加と変更）の設定はしないでください。
- (5) 受付期間：2021年3月1日（月）～4月9日（金）
（遅延・原稿差替えは不可）
- (6) 問合せ先
（公社）農業農村工学会事務局大会担当 宇津木
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494
E-mail：zenkokutaikai@jsidre.or.jp

郵便振替：00160-8-47993
加入者名：公益社団法人農業農村工学会
銀行振込：みずほ銀行 新橋支店
普通預金 1167243

3. 講演原稿の書き方

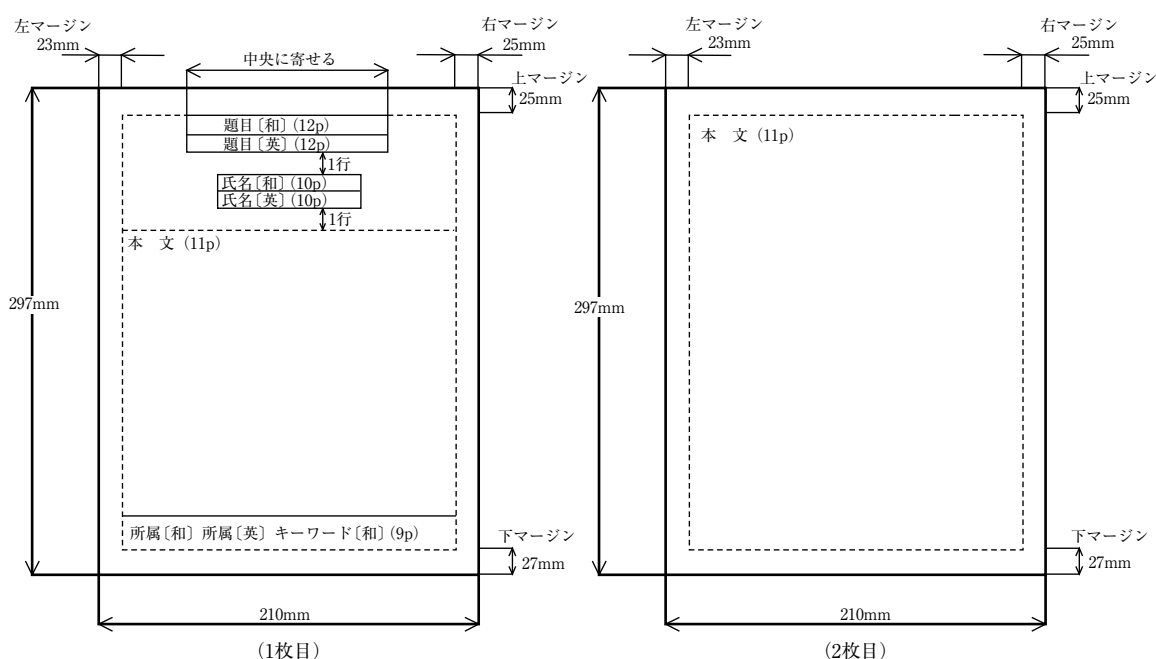
- (1) 用紙サイズは、A4判（横210mm、縦297mm）で、マージンは次のようにしてください（下図参照）。

上：25mm、下：27mm、左：23mm、右：25mm

- (2) 書式

- ① 文字：文字は、11ポイントとしてください。標準フォントとして、MS明朝、MSゴシック、平成明朝、平成ゴシックをお使いください。特殊なフォントは極力使わないでください。また、機種依存文字（①、②、…Ⅰ、Ⅱ、…等）も使わないでください。上下左右のマージン内いっばいに、1行40字、1ページ40行、横書きを標準として印字してください。ワープロソフトによりこの組合せができない場合は、上下左右のマージン内に必ず収まるようにしてください。
- ② 題目・所属・氏名・本文：本文原稿の題目は、1ページ目の第1行と第2行に中央に寄せ、12ポイントで和英併記してください。講演者氏名は、第4行と第5行に中央に寄せ、10ポイントで和英併記してください。また、連名の場合には代表発表者の前に必ず○印をつけてください。

所属は、1ページ目の本文の下に横線を引き、その次の行に左に寄せ、9ポイントで1行に和英併記してください。所属に続けてキーワード〔和〕（キーワード表参照）を書いてください。なお、講演者および所属が複数ある場合は、講演者名の右上に*や**を付け



キーワード表

1. 水 理	2. 水文・水質・気象	3. 土 壌 物 理	4. 土 質 力 学
流体力学一般 管・開水路流れ 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学 水産土木	水文統計 水収支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 浸透流 地下水 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質 エネルギー循環	土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌	土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造
5. 応用力学	6. 材料・施工	7. 灌 溉 排 水	8. 農地造成・整備・保全
構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 固体力学 構造力学 数値解析	コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物	計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理	農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壌改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリー 砂漠化 農地環境
9. 農 村 計 画	10. 環 境 保 全	11. 生 態 環 境	12. 農 業 土 木 教 育 ・ 農 業 情 報
産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域 農村景観	環境保全 環境影響評価 水環境 大気 土壌 物質循環 地球環境	生態系 生物多様性 緑地 親水 ビオトープ 環境教育	農業土木カリキュラム 教育改善・FD 教育手法 技術者育成 継続教育 測量・GIS リモートセンシング IT インターネット

て、講演者と所属が対応するようにしてください。

ださい。

本文は、第7行から書き始めてください。2ページ目は第1行から書いてください。

- ③ 図・表・写真：本文とともに原稿用紙内に書き込み（あるいは貼り込み）、幅いっぱいにならない図・表・写真は右側に寄せ、左側の空白に本文を書くようにしてください。また、図表の表題にも英語を併記してく

4. 著作権

要旨集と概要集に掲載された要旨等の著作権（著作財産権、コピーライト）は、(公社)農業農村工学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構（JST）に提供されます。

なお、特許等の出願にかかる新規性の確保は講演者の責任で行ってください。

2021年度（第70回）大会講演会における「企画セッション」の募集

2021年度（第70回）大会講演会（8月31日～9月3日（3日は現地研修会）、福島大学農学群食農学類）における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企

画セッションの「企画」をお持ちの方はご応募ください。

企画セッションの利用としては、各種プロジェクトの成果発表、特定テーマに関する最新情報の紹介等を想定していますが、

会員の皆様の自由な発想で企画セッションをご活用ください。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者を予定する「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかです。

企画の申込締切は2月5日(金)です。申込みにあたって、下記事項を学会事務局(zenkokutakai@jsidre.or.jp)までE-mailにてご連絡ください。

- 1) 企画セッションのタイプ:「クローズド・タイプ」または「オープン・タイプ」
- 2) 企画セッションのテーマ
- 3) オーガナイザーの氏名, 所属, 連絡先電話番号, E-mail
- 4) 企画セッションの概要 (200字以内)

なお、セッション数の関係上、応募されたすべての企画セッションが採用されるとは限りません。また、類似した企画が提案された場合や研究部会主催のシンポジウム等が別に企画されている場合は、調整をお願いすることがあります。企画の採否については、研究委員会より回答いたします。

「企画セッション」は、特定のトピックについて、原則100分間のセッションを、オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。セッション内の進行は、通常の発表スタイルはもちろん、パネルディスカッションや会場の聴衆を含めた討論方式等も可能です。ただし、セッションを単独の演者が独占する講演会のスタイルは認められません。各セッションとも、最低2名以上の発表があることが前提です。なお、セッションの演者は非会員でも可能ですが、大会参加費の支払いは必要です。

企画セッションでの発表者は、企画セッションと個人発表の各1件ずつの発表は認めますが、個人発表者が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認められませんので各オーガナイザーは発表者選定に当たり、この点に十分留意してください。

なお、企画セッションもCD-ROM版講演要旨集に講演内容を収録します。各企画セッションの発表者は、一般講演発表と同様にWEB投稿を行ってください。

企画セッションの講演申込料は、講演題数にかかわらず、1セッション当たり13,200円(税込)です。

今後のスケジュールは、以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの応募締切
2月5日(金)
2. 研究委員会で採否決定後、応募テーマの採否の決定通知
2月19日(金)頃
3. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始(発表希望者は各オーガナイザーに直接申し込む)
3月5日(金)頃
4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切
3月19日(金)
5. 企画セッションのWEB投稿締切
4月9日(金)

申込み・問合せ先

(公社)農業農村工学会事務局大会担当 宇津木
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: zenkokutakai@jsidre.or.jp

2021年度(第70回)大会講演会における「スチューデントセッション」の講演申込み

2021年度(第70回)農業農村工学会大会講演会は、福島大学農学群食農学類において2021年8月31日(火)、9月1日(水)、2日(木)の3日間、および現地研修会は9月3日(金)の開催を予定しています。

この大会講演会では、学生会員における講演発表の経験の場として、また全国の学生会員の学術交流をはかる場として、スチューデントセッションを設けます。スチューデントセッションで講演発表を行いたい方は、下記要領により、ふるってお申し込みください。今回のご案内は、スチューデントセッションにおける講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は、学会誌4号でお知らせいたします。

発表方法の詳細は、大会投稿サイトおよび学会誌3号または4号に掲載しますので必ず確認してください。

大会講演会の発表申込みはWEB投稿となります。

URLは<http://www.jsidre.or.jp/zenkokutakai/>です。

WEB投稿の受付期間は2020年3月1日(月)~4月9日(金)です。

1. 講演要領

- (1) 講演資格: 代表発表者は、本学会の学生会員もしくは、発表時点で学部を卒業あるいは大学院を修了後1年以内の会員に限ります。講演申込み受付の際、会員番号が必要です。この機会に入会される方は、学会ホームページの入会手続き(http://www.jsidre.or.jp/about_member/)をご参照ください。
- (2) 講演内容: スチューデントセッションでの講演内容は、一般セッションの講演のようにまとまったものでなく、博士論文、修士論文、卒業論文として取り組んでいる研究の途中経過や展望であってもかまいません。また国営事業地区等フィールド調査学生支援事業の成果報告等も歓迎します。ただし、発表には指導教員の同意が必要です。
- (3) 講演部門: 一般セッション(個人発表、ポスター発表)および企画セッションとは別のスチューデントセッションでの講演です。
- (4) 講演方法: スチューデントセッションでの発表は、1人(共同研究の場合は代表発表者)1課題です。ただし、

「一般セッション（個人発表、ポスター発表）あるいは企画セッション」と「スチューデントセッション」での各1件ずつの発表は認めます。

- (5) **発表形態**：発表形態は、口頭発表（講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式）に限ります。
- (6) **講演時間**：1課題9分（発表5分+質疑応答4分）を予定しています（講演数により変更する場合があります）。
- (7) **要旨集**：(2)にあてはまるすべての原稿をCD-ROM版講演要旨集に収録します。
- (8) **概要集**：WEB投稿時の入力情報のうち、講演題目、発表者所属、氏名、講演概要（200字以内）を、概要集に収録します。講演概要が200字を超えるものについては、文章を割愛いたします。

2. 投稿要領

- (1) スチューデントセッションの講演申込料は無料です。
- (2) WEBから新規登録を行い、講演原稿のアップロードをもって申込みとします。
- (3) 講演原稿は、図・表・写真等を含め1課題2ページ以内とし1ページでも可です。本誌64ページの「2021年度（第70回）農業農村工学会大会講演会の講演申込み 3. 講演原稿の書き方」に従い、執筆してください。
- (4) 講演原稿ファイルはPDF形式でのアップロードのみとします。

- (5) 講演原稿PDFファイルは、半角ローマ字表記の代表発表者名（姓名）としてください。（例：「nougyou tarou.pdf」）。

- ・ Acrobat Distiller または Acrobat PDF（アドビシステムズ社：Adobe Acrobat に付属）を使用し、すべてのフォントの埋込みをして変換したPDFファイルとしてください。
- ・ PDFファイルに、セキュリティ（文書パスワード、セキュリティパスワード、印刷、文書の変更、テキストとグラフィックス選択、注釈とフォームフィールドの追加と変更）の設定はしないでください。

- (6) **受付期間**：2020年3月1日（月）～4月9日（金）（遅延・原稿差替えは不可）

(7) 問合せ先

（公社）農業農村工学会事務局大会担当 宇津木

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：zenkokutaikai@jsidre.or.jp

3. 著作権

要旨集と概要集に掲載された要旨等の著作権（著作財産権、コピーライト）は、（公社）農業農村工学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構（JST）に提供されます。なお、特許等の出願にかかる新規性の確保は講演者の責任で行ってください。

2021年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施しております。

2021年度は、規程第4条(1)の「特定分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/format/>）より申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局あてにお申し込みください。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員（学生会員を含む）、または会員により構成されるグループで代表者は論文集またはPWE誌の購読者（援助決定後の購読も可）

2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与すると思われる研究について援助する。
- (2) 2021年度中（2021年4月から2022年3月）に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合、援助の可否については受理を条件として決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安

1件15万円程度とする。

4. 申請締切 2021年2月15日（月）

5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出する。その原稿は学会誌に掲載します。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

6. 申込み・問合せ

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階

（公社）農業農村工学会 学術基金運営委員会

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

7. その他

助成金は2021年4月に送金します。

2021 年度「研究グループ」への助成希望者募集

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度、3 件程度です。

2021 年度の申請締切は、2021 年 2 月 15 日（月）です。助成金を希望される方は期限までに、所定の様式(学会ホームページ参照) で研究委員会委員長あてにお申し込みください。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として 1 年とする。
4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。
 - (ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。
 - (ハ) 「研究グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が 2 つ以上あること。
 - (ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締切日に 40 歳未満であること。
 - (ホ) 代表者は論文集または PWE 誌の購読者（援助決定後の購読も可）であること。
5. 活動報告：助成金を受領した「研究グループ」は助成金受領後 1 年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注 1)研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり 1～2 ページに収まるようにまとめること。

注 2)「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

また、得られた成果を論文集または PWE 誌に積極的に投稿すること。
6. その他：申告書の内容について、研究委員会で審議した内容を採否通知に同封します。なお、助成金は 2021 年 4 月に送金します。

2021 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、大型科研費（S または A）や JST、各省庁のファンディング等の比較的大きな規模の競争的資金の獲得を目指す研究グループに対して助成を行います。助成額は、50 万円（1 件）です。

2021 年度の申請締切は 2021 年 2 月 15 日（月）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込みください。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成するグループを決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として 1 年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。
4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
 - (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が 2 つ以上あること。

(ハ) 代表者は論文集またはPWE誌の購読者(援助決定後の購読も可)であること。

5. 活動報告: 助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

6. その他: 申告書の内容について、研究委員会で審議した内

容を採否通知に同封します。なお、助成金は2021年4月に送金します。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切: 2021年2月15日(月)

申込先: 研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail: new-suido@jsidre.or.jp

必要記載事項:

- (1) WG名(または部会名) (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集

学会誌企画・編集委員会では、学生向けの企画などを担当していただく学生委員を募集いたします。

募集要領は次のとおりです。ふるってご応募ください。

1. 応募資格

- (1) 学生会員であること(応募時に入会も可)
- (2) 年3回程度開催の委員会(東京都港区新橋にて開催)に出席できること(旅費を支給します)
- (3) E-mail, Webが使える環境にあること
- (4) 指導教官の承認を得ること

2. 任期 2021年4月から最長で2年。卒業、就職等で途中退任も可

3. 募集人数 2名

4. 応募締切 2021年3月31日(水)

5. 応募方法

下記①~⑦を記入の上、henshu@jsidre.or.jpまでメールでお送りください。

- ①会員番号, ②氏名, ③大学名, ④2020年4月からの学年, ⑤年齢, ⑥承認を得た指導教官名, ⑦連絡先メールアドレス

6. 問合せ

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、2021年1月以降、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方に対して学会ホームページ上(<http://www.jsidre.or.jp/>)での閲覧サービスを順次開始いたします。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会Web上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者(大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む)の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6

版用語事典 Web上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名および会員番号を付記して(学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む)、下記E-mailにてお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版が付記されたコンテンツになります。なお、Web版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を取録したものです。

お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2020年度の学生年会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発

③ ①、②以外の分野および学際的・学際的に関する調査・研究の推進

・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進

⑤ 若手研究者の育成の推進

⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

⑦ その他(学会に一任)

詳しくは学会ホームページ (http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

2021年4月から新たなCPD制度がスタート!

前年度記録の申請受付は「6月30日まで」に変更となります

農業農村工学会継続教育部



農業農村工学会技術者継続教育機構では2021年4月1日よりCPD制度の運用を一部変更し、教育分野を統合・再編、教育形態の分類、CPD単位数や上限値を見直します。また、前年度のCPD結果を早期に確定するため、前年度記録の申請受付期限をこれまでの「8月31日まで」から「6月30日まで」

に変更となります。

2020年度の研鑽記録を2021年7月以降に申請することはできませんのでご注意ください。CPD登録者の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。詳しくは技術者継続教育機構ホームページの「お知らせ」をご覧ください。

学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構

のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信(事前にWeb利用登録が必要)

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例：学会誌1号掲載の問題は2月末日が解答期限)

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7~9問正解で1.5cpdを自動登録

(正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません)

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

6. 自動登録の時期

2022年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2021年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業(水利)施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠(造形美、用の美、融合の美)とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業(水利)施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号

学会誌第90巻(2022年第1~12号)

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—フォトペーパー/滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4サイズも含まれます。なお、六つ切りは203×254mm、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき5MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切

春季 2021年6月30日
夏季 2021年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したのものに限ります。

6. 審査

7. 結果発表

審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。
学会誌第90巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2022年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History(表紙写真由来)」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には、被写体の説明文(500字程度)をご執筆いただきます。また、ご希望の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History(表紙写真由来)」にご執筆いただくことができます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料(1点につき1万円)をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は(公社)農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/format/>)より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

農業農村工学会誌投稿要項の一部改正および「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿

1. 農業農村工学会誌投稿要項の一部改正

学会誌企画・編集委員会では、投稿要項の一部改正（案）について定期刊行物委員会に検討を依頼し、その案を2020年12月15日の第262回理事会に報告したところ、承認されました。主な改正は、学会誌投稿要項の表-1の備考欄に記載している各掲載区分の「公募」、「依頼」および「自主投稿」の記載などを見直しました。

また、報文（刷上り4ページ）において、引用文献のあとに記載している著者略歴の体裁を変更し（顔写真の掲載は筆頭著者に限定など）、これにより確保された紙面を本文の掲載に活用できるようにしました。

今回の報文体裁の変更の運用は、投稿原稿を2021年1月1日以降に受領した報文から著者の確認を得た上で順次移行する予定です。それ以前に受領した報文原稿における著者紹介の掲載体裁については、編集上の必要が生じた場合に限り別途連絡者をご相談させていただきます。

ただし、レポートと技術レポートの著者紹介についての体裁は変更の対象としません。なお、編集段階で必要が生じれば著

者との確認の上、報文に準ずる著者紹介の体裁変更を行うことがあります。

詳細については、本誌77～78ページをご覧ください。会員の皆様のご理解をお願い申し上げますとともに、皆様からの多様な投稿区分への多数の投稿をお待ちしております。

2. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字以内、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第89巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判1,500字以内)
第89巻第2号 中山間地域における水路インフラの保全・活用と農業農村工学（仮）	終了
3号 地域資源の活用による中山間地域の地域活性化（仮）	終了
4号 With/Post・コロナ時代の農業・農村のあり方（仮）	終了
5号 農業用ダムにおける洪水調節機能の増進方策（仮）	終了
6号 研究・教育を担う人材育成と学術評価のあり方（仮）	終了
7号 大会特集号（東北支部）	公募なし
8号 記録的な豪雨に対応する農業農村地域の役割（仮）	2月10日
9号 土地改良区に期待される役割、その支援策と先進的な取り組み事例（仮）	3月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先（要旨および本文原稿など）
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494
E-mail：henshu@jsidre.or.jp
※提出は、E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

第89巻第8号テーマ「記録的な豪雨に対応する農業農村地域の役割」（仮）

近年の記録的豪雨は、既存の治水施設や排水施設では災害を防ぎきれない事象を発生させ人命や農業農村に甚大な被害を与えています。さらに、中山間地域などではこれらの災害を契機として地域の存在が危ぶまれる状況も生じています。第89巻第5号では、豪雨や洪水に対する点的な対応策として「農業用ダムにおける洪水調節機能の増進方策」（仮）を企画しました。一方、国土の多くを占める農地や地域に面的に点在するため池などの洪水緩和・調節機能の発揮などにも大きな期待がかけられています。その中で、水田の洪水低減機能の増進のための「田

んぼダム」の取り組みは、社会実装の段階までに発展しています。

また、2020年7月の社会資本整備審議会の答申では、気候変動を踏まえ社会全体で洪水に備える水防災意識社会の構築やあらゆる関係者が協働して流域全体で行う「流域治水」への転換の推進などが示されています。

そこで、本小特集では流域に広く、また多数分布する農地やため池などの洪水防止機能の可能性やその限界、さらなる豪雨災害に対する機能向上の方策および国土強靱化への貢献策、これに関連する農業者や農業側の意識などについて、これまで解

明された知見，開発された技術とその適用，今後の研究方向などに関する報文を広く募集します。

第89巻第9号テーマ「土地改良区に期待される役割，その支援策と先進的な取組み事例」(仮)

土地改良区は，農業農村整備事業の申請者や農業水利施設の施設管理者として農業農村整備の主体となる存在です。しかし，農業構造の変化や担い手不足，高齢化を背景にその組織構造が大きく変化し，また，これらに起因する組織・運営上の問題点や脆弱性も指摘されています。2018年10月の土地改良法の改正では，これまで明文化された規程がなく慣例的に行われてきた場合が多かった農業用水の利用の調整方法について，土地改良区が水需要の実態に応じた農業用水の適切な配分が行われるよう，新たに利水調整規程を定められたことで，土地改良区の役割も広がっています。

全国の土地改良区の総数は，1980年の9,031地区から2019年には4,403地区と半減し，その間の一地区当たりの面積は380haから567haへと約1.5倍に拡大しています。また全国の組合員数は，同じ年の間での比較では，4,891千人から3,505千人へと約30%減少しています。これらの傾向は，農業水利施設などの維持管理，土地改良区の運営，さらには農業の担い

手の農業経営に大きな影響を及ぼすと考えられます。

一方，現在議論されている新たな土地改良長期計画の検討では，今後の農業者の高齢化や労働力不足に対応しつつ，生産性を向上させ，農業を成長産業にしていくための方策が検討されています。そこではデジタル技術を活用することで，データ駆動型の農業経営を通じて消費者ニーズに的確に対応した価値を創造・提供していく，新たな農業への変革（農業のデジタルトランスフォーメーション（農業DX））を実現することが不可欠であるとしています。

実際，いくつかの土地改良区では，地域農業を支える灌漑施設の点検業務を改革し，技術伝承の仕組みを確立してICTで点検精度向上を実現している先進地区も散見されます。

そこで，本小特集では，土地改良区を巡る状況，土地改良区の組織や制度，施設管理にロボット・AI・IoT等の先端技術を活用した事例など今後の農業の動向を見据えた土地改良区の方角性に関する報文を広く募集します。

3. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には，農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」，「農業農村工学会誌」原稿執筆の手引き」を熟読の上，小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員

会あてに，ご投稿ください。

なお，投稿票・内容紹介・本文（テンプレート）の各ファイル（Word）を更新いたしました。上記の学会ホームページからダウンロードし，各ファイルを使用して原稿の作成をお願いいたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2021年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES）では，機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは，モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文，技術論文が多数掲載されていますので，研究者のみならず，各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また，2018年のインパクトファクター（IF）は1.264となり，国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地，水，施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており，掲載論文の分野は，次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理，水収支，灌漑施設，栽培管理）
- ② 排水（排水管理，排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良，土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発，水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節，地下水涵養など）

- ⑥ 生態系の保全（水生，陸生動植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理，地すべり，気候変動，災害防止など）
- ⑧ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壌環境，気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑転換，施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

また，世界11カ国からEditor（20名）を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は，Review，Article，Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

一方，2020年7月から，新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・ Editor-in-Chief

Dr. Takao MASUMOTO

Faculty of Bioresource Sciences, Akita Prefectural University, Akita, Japan

• **Associate Editors-in-Chief**

Dr. Seong-Joon Kim
Konkuk University, Korea

Dr. Chen-Wuing Liu
National Taiwan University, Taiwan, ROC

• **Editors** 11 カ国から 20 名

• **Editorial Advisors** 29 名

• **Chief Managing Editor**

Dr. Inhong SONG
Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea

• **Managing Editors**

Dr. Chihhao FAN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Masayuki FUJIHARA
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Eunmi HONG
School of Natural Resources and Environmental Science, Kangwon National University, Korea

Dr. Toshiaki IIDA
Graduate School of Agricultural and Life Science, The University of Tokyo, Japan

Dr. Kuo-Wei LIAO
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Soji SHINDO
Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan
編集事務局 (2022 年 6 月まで韓国担当)

• **Dr. Inhong SONG**
Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University
1 Gwanak-ro, Gwanak-Gu, Seoul, 151-742, KOREA
TEL : +82-2-880-4581
FAX : Fax: +82-2-873-2087
E-mail : inhongs@snu.ac.kr

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,000 円+税
学生会員 (院生含む) 4,500 円+税

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで
会員番号を明記の上、お申し込みください。

水土文化研究部会第 17 回研究会の開催 (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



「〈水〉と〈土〉と〈人〉の複合系」である〈水土〉は、農業を基軸とするも、経済行為にとどまらない多彩な事象に満ちている。〈水土〉をいかに見極めるか、それは来し方・行く末を展望するうえでの基本でありかつ永遠の課題である。

モノとサービスの挙動をとらえるツールとしての経済学は、「合理性」を基本概念とし分析手法を多様化・精緻化させつつ、純粋な経済的事象にとどまらず、事象を支えるヒトにも焦点を合わせ、その行動や規範、組織・制度、つながりなど社会の枠組みにまで〈知〉の領域を拡大してきた。他方、近年の自然環境の劣化や所得格差の拡大などを背景に、ツールの意味を問い返すような動きも出てきている。

〈水土〉を維持・育成する農業農村整備についての計量経済分析に長年携わり斬新な知見をもたらしてこられた第一人者とともに、最新の経済学的アプローチから何が見えてくるかを中心に、さまざまな視点から〈水土〉のとらえ方について議論したい。

1. **テーマ** 〈水土〉のエコノミー
2. **日時** 令和 3 年 3 月 2 日 (火) 13:30~16:00
3. **場所** 新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、オンライン形式で開催いたします。アクセス URL は、申込みの方にメールにて連絡いたします。
4. **プログラム**
講演
「EBPM (エビデンスに基づく政策立案) に向けた農業施策の経済評価—マクロ実証分析の立場から—」
農研機構農村工学研究部門 國光洋二
コメンテーター : NTC コンサルタンツ(株) 中田摂子
パネルディスカッション : 講演者+コメンテーター
コーディネーター : 水土文化研究部会 広瀬 伸
5. **参加料** 無料
6. **申込み・問合せ先**
〒 305-8609 茨城県つくば市観音台 2-1-6

(国開)農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門
 地域資源工学研究領域 地域エネルギーユニット
 ユニット長 後藤真宏
 TEL : 029-838-7548 FAX : 029-838-7609
 E-mail : griese@affrc.go.jp

申し込み下さい。

氏 名 (CPD 番号)
 所属機関
 所在地
 電話番号
 FAX 番号

7. 参加申込要領

整理の都合上、2月24日(水)までに以下の要領にてお申

*部会員以外の方も参加できます。

令和2年度 ADCA セミナー「君の学びを国際協力へ 海外農業農村開発からの発信」(仮)の開催

- | | | | |
|--------|------------------------------|---------------|--|
| 1. 主催 | (一社)海外農業開発コンサルタンツ協会 | 発分野の若手コンサルタント | |
| 共催 | 弘前大学, 高知大学 | 5. 参加人数 | 50名程度 |
| 後援 | 農業農村工学会ほか | 6. 参加費 | 無料 |
| 2. 日時 | 2021年2月6日(土) 13:00~15:30(予定) | 7. 申込方法 | E-mailで人数・職業および連絡先を明記の上,
お申し込みください。 |
| 3. 場所 | オンライン開催 (Zoom) | | E-mail : adca2@adca.or.jp |
| 4. 参加者 | 弘前大学および高知大学の学生, 農業・農村開 | | |